

「喫煙」は新型コロナ「後遺症」の原因になるか

2025年1月12日石田雅彦科学ジャーナリスト



新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下、新型コロナ）で無視できないのは、2020年5月頃から問題視され始めた後遺症（罹患後症状、遅延症状、Long-COVID）だ。感染者が増えればそれだけ後遺症の患者も増え、後遺症に悩む人も増え続けている。新型コロナ後遺症のリスク要因として喫煙が指摘されているが、最近の研究からそのリスクを考える（この記事は2025/01/12時点の情報によるものです）。

喫煙は新型コロナ後遺症のリスク要因

新型コロナの入院や重症化、死亡は、喫煙と強い関係がある。日本の研究によれば、喫煙量が増えるほど新型コロナの重症度が増すことがわかっている（※1）。

新型コロナに感染した人の多くは回復するが、治療後も症状が続く新型コロナ後遺症は大きな問題になってきた。新型コロナ後遺症のリスクにはどんなものがあるのだろうか。

イタリアの研究グループが実施した複数の研究を比較し、統合的に分析する論文によれば、女性のほうがリスクが高く、基礎疾患（喘息、慢性閉塞性肺疾患＝COPD、睡眠時無呼吸症候群、糖尿病、肥満）、そして喫煙などに発症との関係があるという（※2）。これらの関係は依然として議論の分かれるところだが（※3）、中でも喫煙は新型コロナ後遺症の強いリスク因子とされる（※4）。

全米の匿名データを用いた研究によれば、喫煙者は非喫煙者に比べて新型コロナから回復後に後遺症を発症するリスクが33%（オッズ比1.33）高く、過去喫煙者でも21%（オッズ比1.21）高かった（※5）。また、日本の研究グループによる報告によれば、喫煙は新型コロナ後遺症の回復を遅らせるリスク要因ということがわかっている（※6）。

米国の大学生の新型コロナ後遺症の状況を調べた研究によれば、参加者の36%が後遺症を発症し、喫煙歴（現在喫煙者、過去喫煙者）のある参加者の発症リスクは非喫煙者に比べて59%（オッズ比）高かった（※7）。これは、ほとんど基礎疾患のない年代の若い参加者を対象とした研究として重要だ。

ワクチン接種も後遺症予防に重要

また、新型コロナ後遺症では、感染前のワクチン接種が発症リスクを下げるということがわかっている。これは最近の研究からも明らかだ（※8）。

気温が下がって乾燥するこの季節、風邪やインフルエンザなどの呼吸器感染症が流行している。新型コロナも例外ではなく、依然として患者は多いままだ。

新型コロナ後遺症については、明確な定義もまだなく、研究の多くはアンケート調査によるものでバイアスが生じやすいという問題がある。基礎疾患にかかっている喫煙者や肥満の喫煙者もいるはずだ。

だが、喫煙は重症化などの明らかなリスク因子であり、後遺症との関係も強く示唆されている。禁煙することが、新型コロナの重症化対策や後遺症の予防に重要なのは言うまでもない。

